

生産現場の情報の不透明さを分析し、デジタル工程管理の導入とナレッジ共有を検討。属人化を解消して自走する組織を構築し、多角化と事業拡大を支える土台を作るためのDX計画を策定。

エコテクノロジー山陰株式会社				https://ets-g.jp/	
本社所在地	安来市伯太町井尻156-2	資本金	300万円	事業概要	ワイヤーハーネス加工、水道メーター組立、再生資源卸売等
代表者名	足利 公介	従業員数	13名		
設立年	2019年	業種	製造業		

背景

- 生産計画、実績が可視化されておらず、進捗や余力が外部から見えないため、受注機会の損失や突発的な計画変更への対応遅れが生じている。
- 技術や管理が特定個人に依存する「属人化」が顕著であり、不具合の再発防止や若手の育成が体系的に行えていない。
- 紙やExcelによる情報共有に限界があり、情報の伝達漏れや格差が、従業員の不満や生産性の低下を招く要因となっている。

計画の骨子

デジタル工程管理の導入と定着

- ▶ ノーコードツール「kintone」を活用して生産計画と実績をリアルタイムに共有し、予実管理を可視化することとした。
- ▶ 全従業員が予定を把握して主体的に動ける体制を確立し、進捗確認時間の70%削減と生産性向上を図る計画を策定した。

組織知の蓄積と平準化の推進

- ▶ 業務フローの最適化と手順書のデータベース化を推進し、不具合情報の共有やスキルマップ管理をシステム化することとした。
- ▶ 属人化を解消して育成コストを削減し、高い技術力と組織力で頼りにされる企業への変革を目指す方針を策定した。